

識字学級

1 識字運動

差別や貧困等により、教育の機会を奪われ、文字の読み書きができないままに今日を迎えている人たちはどんな思いで生活しているのでしょうか。現代社会において、読み書きができないことは、生活上不便であるだけでなく、経済上の不利益を受け、さらには人間の尊厳さえも侮辱されることがあります。

識字運動は、単に読み書きを学ぶというだけではなく、奪われた文字をとりもどす活動を通して、自分という人間の存在を自らが認めることにより、人間としての豊かさを求め、人間らしい生き方を明らかにしていく運動です。

15歳以上で読み書きのできない人は、アジア地域を中心に、世界で8億8千9百万人（ユネスコ統計1985）いるといわれています。国連では、1990年を「国際識字年」と定め、世界の人が力を合わせて2000年までに読み書きのできない人をなくしていこうと呼びかけました。しかし、世界的に見た15歳以上の識字率（文字の読み書きができる割合）は、男子83%、女子69%という状況です。

（1995-1999統計）

2 識字学級

識字学級は、1963年（S38年）、福岡県行橋市の「開拓学校」で始まったとされています。やがて、この取り組みは、近隣の筑豊産炭地帯へと広がっていきましました。

長野県における識字学級は、1926年（T15年）南佐久郡田口村（現臼田町）に見ることができます。

識字学級という名前での活動は、1974年（S49年）頃から、「集会所指導事業」の一環として、各地で取り組まれ大きな成果を上げています。

なお、全国的に見れば、識字学級に取り組んでいる人は同和地区の人たちだけではありません。様々な理由で就学の機会が得られなかった人たちや、在日外国人に対する識字学級（日本語教室）が、ボランティア等により開かれています。

〔「わたし」と「あなた」そして「みんな」の人権P50参照〕